

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11 月 16 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502686		
法人名	株式会社 リブネット		
事業所名	グループホーム かざぐるま		
所在地	福山市御幸町上岩成609-1 (電話) 084-961-1200		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502686-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者一人ひとりが役割を持ち、ご利用者主体の生活が送れるように力を入れています。ご利用者の生活の流れにスタッフは合わせ、家事すべてにおいては一連の流れを大切に、ご利用者とスタッフが一緒になって取り組めるようにしています。ご利用者との関わりを大切にして、安全・安心に生活できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者がゆったりと、各人のペースで生活できるように職員は見守り、職員・利用者が笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。利用者が出来ることを行ってもらいたいとの考えから、利用者の役割分担をして、職員と一緒に作業を行っている。利用者と一緒に献立を決め、食材の買い出し、準備、味付け、後片付けを一緒に行っている。月1回、ドライブの後に外食を楽しんだり、時にはバーベキューをすることもある。利用者の好きな時間に入浴するようにし、買い物や墓詣りなどの外出希望にはすぐに対応している。職員の委員会活動として、グループホームの虐待防止委員会で「言葉使い」・「食事介助」の標語を作り、取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念を事務所へ貼り、スタッフ皆が見えるようにしている。	法人理念・事業所理念があり、事業所内に掲示されている。管理者は、理念に関する事を申し送りして説明している。職員が年間目標を立て、実施状況について話し合いを行っている。	年間目標実施状況に関する話し合いは行われているが、出来ている事・出来ていない事が明確に提示されていない。今後は、実施状況の評価を明確にして、目標が達成できるように取り組み、サービス向上に活用されることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所のスーパー（ハローズ等）へ、食材を買いに行っている。	近隣小学校の運動会・文化祭を見学したり、町内の祭りに参加し、また、町内会が行う草取りなどの清掃活動や廃品回収に利用者が協力している。地域のスーパーに買い物に行き、店員との会話を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外に出る機会を設けて、認知症の方でも色々なことが出来るということを理解してもらいたいと思うが、今は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、開催できるように努めている。主任が参加し、来られた方の意見や感想等を聴き、ユニット内の取り組みに活かせるようにしている。	運営推進会議は定期的開催され、年2回、家族会と同一日に開催をすることで、利用者・家族が多く出席している。会では活発な意見交換がある。参加者の提案により、地域の福祉会へ出席を要請する予定である。また、参加者の意見により、グループホーム内の事故をより詳細に報告し、事故防止策を協議し、報告するようにした。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃の不明な点などは、市担当者へ相談し、連携をとっている。	運営推進会議の開催予定を市に毎回報告し、市職員の出席を要請し、市職員が参加することもある。地域包括支援センターとは、常に意見交換を行っている。市生活課職員が定期的に来訪し、利用者に関する相談を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日常のケアの中で、主任を中心にミーティング、勉強会、研修等の中で周知し、拘束をしないケアに徹している。</p>	<p>身体拘束に関する外部研修に職員が参加し、各ユニットで勉強会を行っている。家族の同意を得て、ベッド柵を設置している利用者があるが、定期的に検討会を行っている。今後は身体拘束に関する研修を充実したいと考えている。</p>	<p>身体拘束の勉強会は行っている。しかし、今後は「言葉による強制」や「車いすや椅子に長時間座ることでの行動を抑制」なども身体拘束に該当することを、職員に説明してほしい。そして、広義の身体拘束にも言及し、研修が充実することを期待します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常のケアの中で主任を中心にミーティング、勉強会、研修等の中で周知し、虐待に対する意識を高め、防止に努めている。虐待防止委員会を発足して、定期的にアンケートを行い、会議を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者権利擁護指針を下駄箱の上に置いて、いつでも見えるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>本人の希望、家族の希望等について、事業所では対応出来る事、出来ない事項について、契約時に限らず、必要ときに家族、本人と事業所が確認し合い、納得した上で利用してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回(春・秋)家族会を開催し、その中で家族との話し合いの場を設けており、家族へのアンケートを実践している。面会時には、日頃の様子を話したり、サービス担当者会議では、家族からのご要望を理解するようにしている。</p>	<p>年2回、家族会を開催し、家族と意見交換している。その際に、利用者に対する不適切な対応について改善策を提示し、現在、取り組んでいる。家族に対するアンケート結果の内容により、利用者の様子を、家族に詳しく報告するように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	主任会議、各ユニットでのミーティングの中で、意見や提案等を話し合う場を設けている。	各ユニット会議で職員の意見を聞き、リーダー会議で職員の意見を報告している。職員の意見により、利用者と一緒に過ごす時間を増やす為に、介護助手1名を配置し、利用者との活動を充実させている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	資格取得や実績が、給与に反映できるような仕組みになっている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	スタッフの経験に応じた内容の外部研修への参加を行っている。法人内の勉強会を開催し、職員の育成に努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	以前は、他施設と一緒に勉強会をしたりと交流する機会があったが、今は出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	利用前の事前訪問などで、現場スタッフとも安心して、相互に要望が言い合えるような関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>要望に沿ったサービスを提供できるように、家族の思い、心配ごとなどを話してもらえよう関係造りをしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人の希望、家族の希望について、事業所で出来る事、出来ない事とすり合わせ、要望に応えられない場合には、要望に沿えるような代替サービスを紹介している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご利用者主体の生活を実践していく為に、スタッフはご利用者の要望を叶える為に存在していることを認識し、ご利用者と暮らしを共にする関係作りをしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>事業所がすべてしてしまうのではなく、家族が参加出来る時には参加してもらい、本人と家族の関係を最優先にし、家族では補いきれない部分を事業所がサポートするように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>自宅や地域の祭りや花見などの、地域行事に参加したり、帰宅したい時には帰宅出来るようにして、家族の都合がつけば外泊できるようにしている。又、事業所に家族が宿泊されたり、電話などを使い、関係が途切れないように支援している。</p>	<p>利用者の自宅の近隣地域の祭りに参加したり、帰宅したいときにはいつでも帰宅できるように支援し、馴染みの人との関係が継続するように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。			
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	長期入院の為退去した方へ、ご利用者と一緒にお見舞いに行ったり、亡くなられた方への葬儀に参列している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	一人ひとりの要望を把握し、どうしたら実践できるかをいつも考え実行している。	日常会話から得られた利用者の思い・要望は、個人記録に記載し、職員間で共有している。その中で、以前に礼拝に行っていた教会が判明し、利用者案内したこともあった。編み物が趣味の利用者には、材料を準備し、実践できるようにしたり、外出希望については、すぐに外出できるよう対応している。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	日常の本人との会話、面会時の家族との会話やサービス担当者会議等で情報を得ている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	ライフチャートや申し送り等で、全スタッフが情報を共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ミーティング時に、全員で行うカンファレンス以外にも、申し送りノートを使用したり、少しの時間を利用し、個々のスタッフ間でも意見交換を行い。少しでも多くの情報が、サービスに反映出来るよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者毎に担当者を配置し、担当者と管理者がモニタリングを行っている。ケアカンファレンスでは、モニタリングの結果を基に、職員の意見を聴き、家族の意見を反映して、プランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ライフチャートを利用し、こまめな記録と勤務交代時の申し送り等で、情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その都度、本人、家族、事業所で話し合い、可能な限り実現できるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の祭りや催し物等の行事へ参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>何かあれば、いつでも相談、受診できる体制になっている。事業所の協力病院以外でも、本人、家族が希望するかかりつけ医を利用している。</p>	<p>本人・家族の要望により、かかりつけ医を決めている。利用者の多くが事業所の協力医をかかりつけ医としている。なお、必要があれば、専門医の受診を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>協力病院の看護師に、いつでも相談できるように、体制が整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には病院との連携を密にし、少しでも早期に退院できるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族、医師、事業所で話し合う機会を設け、事業所で出来ることと本人と家族の要望をすり合わせながら、最期まで生活できるように支援している。</p>	<p>本人・家族の要望があれば、看取りを行う方針である。重度化した際には、医師と相談し、家族の意向を確認し、適切な支援を行っている。その際、医療連携の看護師が医師と連絡を取り対応し、また、終末期介護研修も実施している。今年度も看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時のマニュアルを準備している。定期的に、スタッフ全員が救命救急講習を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の職員指導の下に、避難訓練を定期的に行っている。災害時の地域との連携はとれていない。</p>	<p>年2回、消防署立ち合いの下に避難訓練を行っている。それ以外にも、災害マニュアルを見て実施する訓練、避難経路の確認や利用者の避難誘導などの自主訓練も行っている。今後は、夜間を想定した訓練を行う予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	各ミーティング、社内研修などを利用し、ご利用者の尊厳を尊重するケアの重要性を話し合い、実行している	人格尊重・プライバシー尊重のマニュアルは職員に配布されている。また、「業務案内」に詳しく掲載されている。管理者は、言葉使いや声かけに関して、丁寧に対応するよう職員を指導している。利用者の個人情報を外部に漏らさないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、ご利用者の要望を少しでも多く汲み取るように努め、本人が思いを発言できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフは、ご利用者の希望が分かり次第、即対応が実践できるかどうか、判断するような意識付けの下で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者と相談して、その時に着る服を選ぶようにしている。訪問美容室を利用して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を一緒に決めてから、食材の買出しへ行っている。調理時には、各ご利用者の出来るところを担当してもらい、ご利用者、スタッフが一緒に準備や食事、片付けを大事にしている。	食事の献立は、利用者と相談して決め、食材も利用者と一緒に買い出しに行っている。また、下準備・味付けも利用者と一緒に行い、手作りの食事を提供している。バーベキューやたこ焼きなどを一緒に作ったり、月1回はドライブの後に外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一日の食事量、水分量は、記録を見て全スタッフが把握出来るようにしている。個々の状態に応じて、食べられない時には食べられる物を、少しずつ食べて頂くよう援助している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後に声掛けを行い、介助が必要な方にはスタッフが誘導して行っている。訪問歯科による、月1回の検診をお願いしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し，一人ひとりに合わせた援助を心掛けている。</p>	<p>オムツを出来るだけ使用しない取り組みを行い、リハパンツから布パンツ使用に改善された事例がある。オムツからリハパンツ使用へと段階を経て、オムツを削減するよう取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便の間隔を把握し，個々の状態により、医師の指導の下、下剤や浣腸の使用行っている。予防としては、水分摂取量に気をつけている。腹部マッサージ等を取り入れている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご利用者が入浴したい時に、入浴してもらっている。又、極力好きな時間に入浴できるように援助しているが、対応の難しい時間帯もある。</p>	<p>利用者の要望により、利用者が好きな時間に入浴しており、毎日入浴する利用者もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	就寝時間、起床時間には特に決まりは なく、ご利用者のリズムで生活して頂 いている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変化 の確認に努めている。</p>	処方箋説明書をご利用者のカルテに綴 じて、いつでもスタッフが確認でき るようにしている。往診、受診時に、指 示された注意事項に関しては、往診 ノートに記入するようになっており、 全スタッフが薬についての確認が出来 る体制になっている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせ るように、一人ひとりの生活歴や力 を活かした役割、嗜好品、楽しみご と、気分転換等の支援をしている。</p>	一人ひとりの好みに合わせ、買い物、 外出、映画、娯楽等の趣味活動ができ るようにしている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援してい る。</p>	一人ひとりの希望、要望が分かった ら、即対応出来るように、スタッフに 意識付けをしている。家族、スタッ フとの外食、お墓参り等の希望するこ とが、実現できるように努めている。	買い物やお墓詣りなどの外出要望があ れば、すぐに実施するようしてい る。天気の良い日は、散歩するよう にし、月1回、車で遠出を楽しみ、外食 をする計画を実施している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの 希望や力に応じて、お金を所持した り使えるように支援している。</p>	各個人での金銭管理はしておらず、各 ユニットの事務所に金庫を設け、管理 しているが、使いたい時に使用でき るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かがやき)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	好きな時に電話をしたり、年賀状を書いたりしている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節の花を飾ったり、季節ごとにユニット内の飾りを変えたりと、季節感が味わえるようにしている。	施設内が快適になるように、適切な温度・湿度となるように努めている。季節を感じてもらいたいと考え、季節の花を飾っている。清潔を保つように、毎日、担当者を決めて掃除を行い、利用者が手すりを拭くなど協力している。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングの中の様々な場所に、テーブルやソファがあり、好きな時に好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。家族の写真や、自分で作った作品等を飾っている。	使い慣れた家具を居室に持ち込んで貰っているが、仏壇を持ち込んだ利用者には、花の取り換えなどを、職員が手伝っている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	各ご利用者の個室、お風呂、トイレ等わかりやすいように表示している。		

V アウトカム項目 かがやき			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームかざぐるま

作成日 2017年 1月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	<ul style="list-style-type: none">・町内会長の方が平日仕事をされておられ参加ができていない。・地域連携	<ul style="list-style-type: none">・質の向上を目指すため、地域の方々の力が必要なので、副町内会長・福祉会の方々にも参加していただく。	<ul style="list-style-type: none">・地域交流を活発に行い、町内の行事等に参加する。・月1回かざぐるまたよりをポスティングする	5ヶ月
2	7	<ul style="list-style-type: none">・職員の意識レベルが問題。・接遇、言葉使いも問題	<ul style="list-style-type: none">・虐待防止委員会で虐待に対する意識を高め防止する。・接遇、言葉使いの徹底	<ul style="list-style-type: none">・日常のケアの中で、ミーティング・勉強会・研修等行い周知し、虐待に対する意識を高め防止に努める。	3ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。